



UNMANNED 無人駅の芸術祭/大井川
アートによる地域づくりプロジェクト

2024年度 実施報告書



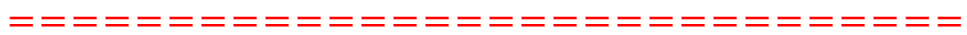
NPO 法人クロスメディアしまだ www.cms.or.jp
島田市日之出町 4-1-1F (C-BASE) TEL0547-39-3666

01 はじめに

2024年度は、アーティスト・イン・レジデンスを軸に展開をした。国際視点、農業、経済活動という3つの特色あるAIRプログラムを実施することで、作品制作のみをゴールとするのではなく、地域の日常や生活により根ざすためのAIRを行い、UNMANNED EXHIBITIONは3本のAIRの成果発表展という形で実施をした。2年後に向けた地域芸術祭のリニューアルに向け模索する中、1年を通してアーティストの受け入れを継続しながら、より地域とアートが深く関わりを創ることを目的とした。加えて、アートによる学びの創出にも力を入れた。子ども里山アートプログラムと大井川アートキャンプをそれぞれ初開催。アートと地域を共に学ぶことのできる新たな学びの場づくりに挑戦をした。秋には抜里エコポリスと大地の芸術祭及び棚田バンクの視察研修も実施。地域における産業、暮らし、学びに同時に様々な手法でアートを媒介させた一年間だった。以下、2024年度の報告である。



02 総括



今年度は3つの視点（国際・農業・経済）において展開するAIRを軸に年間を通したプログラムを実施。2～3月に成果展という形式でのEXHIBITIONの開催を行った。一年を通して、アーティストが滞在を行い、多様な視点で作品制作やリサーチを実施していった。これまでとの相違は、必ずしも作品制作のためだけの滞在ではないことであり、それにより地域住民との交流の幅が広がった。

受入側である地域住民も、作品制作への協力だけではなく、茶業や地域に対する“レクチャ”という新たな役割が生じた。地域づくりの視点から言えば、外部人材の受け入れや協力から、教えるという新たな役割を担い始めたことは大きな成果であると考ええる。

アーティストの選定においても変化があった。何を制作するか、という表現ベースでの選定・招致の視点だけでなく、例えば農業、企業、等をはじめとした地域（他者）へのまなざしをどのくらい持っているアーティストかどうかを重視する選定を行った。これまでの芸術祭においても表現以外の“まなざし”を重視してきたことが役立った。このことは、これまで実施してきた無人駅の芸術祭におけるアーティストと集落住民との化学反応の積み重ねの先でこそ行うことができたと考ええる。

企業との共創のプロジェクトにおいては、そもそも全く異なるベクトルと価値観で活動をするアーティストと企業をどう結び付けるかは企業、アーティスト双方の選定段階から苦労したが、プロダクトを生み出す側面というよりも、企業のそもそもの存在意義や価値の部分に、新発見となるようリサーチを行うことができないか、そこにアーティストの視点をぶつけることを意識したところ、企業、アーティスト双方にとって新たな発見と今後につながる結果を生み出すことができた。

里山プログラムと大井川アートキャンプにおいては、アートによる学びの場づくりの本格実施として取り組んだ。これまでに培ってきた地域のフィールドが上手く作用し、地域とアートの固有のプログラムの創出につながった。

2018年から開催してきた「UNMANNED 無人駅の芸術祭／大井川」の動きを一旦止めると決定した今年度。2年後のリニューアルに向けて、地域をより深く掘り起こすことを目的にAIRを重視した一年間とした。しかし、それにより「まつり」の重要性も色濃く見えた一年であった。地域側、アーティスト、来訪者にとって7年間毎年開催してきた無人駅の芸術祭が地域の生きた「まつり」として機能していたことを目の当たりにした。2年後の地域芸術祭リニューアルに向けての大きな発見となった。地域芸術祭としての祝祭性とは、を捉え組み立てていきたい。

韓国との交流はより加速し、EXHIBITION 会期中においては、韓国鍾路区庁長はじめ、国会議員ら12名の視察団の来訪があり、作品鑑賞をはじめ静岡県、島田市を訪問した。街の規模は違えど、アートによる空き家活用や地域芸術祭の開催に非常に興味を持っており、抜里エコポリスや島田市議等を含めた交流を実施した。東アジアでの協働によるアートプロジェクトの推進を実施していく。

次年度以降に向け、引き続き地域を掘り起こすプロジェクトを実施していく。アート、民俗学の視点においてより深く地域を掘り起こした作品制作を行うプロジェクトを実施予定である。地域住民が外部よりやってくるアーティストの受け入れを行うようになり、滞在の受け入れと制作の協力、レクチャ、何より“ここにいて良い（ここで表現して良い）”という新たな居場所づくりに寄与することで、アーティストはこの場所で過去最高の作品を制作していく。新たな居場所は、ゲストハウスヌクリハウスという場の話ではなく、温かな関係をつむぎ、人と表現をそれぞれのやり方で理解してくれる人のいる第二の故郷というような気持ちの意味での居場所である。その、お金ではない交換・贈与の渦が抜里集落を中心に着実につくられはじめている。これは、大井川アートキャンプの赤坂憲雄氏のレクチャ後に、メイン講師であり当芸術祭に初年度より参加をする西田秀己氏が話した言葉である。

住民側にとっても、この交換によってアートを深く理解していく不思議な動きが生まれている。住民たちは美術館にも行ったことのない、アートが「わからない」人達である。しかし、今は参加アーティストを理解し、作品の成り立ちを理解し、さらに作品制作体制の距離感までも確実に理解している。この交換の循環の渦と、地域芸術祭という「まつり（祝祭性）」の要素を強め、我々が目指す地域芸術祭を次年度以降目指していきたい。当市に位置する富士山静岡空港も新たな拠点と捉え、加速している東アジアの受け入れ玄関の機能を有していきたいと考える。

今年度も助成をいただいた関係機関及びアーティスト、抜里エコポリスをはじめとする協力いただいた全ての方々に感謝申し上げる。

総合ディレクション
NPO法人クロスメディアしまだ
大石歩真・兒玉絵美

03 国際×ART =====

大井川国際アーティスト・イン・レジデンス事業

Oigawa International Artist in Residence Program

国際的に活躍する3組のアーティストを招聘。様々なスタイルで“滞在”制作を行うアーティストを選定することで地域を多様な視点で“掘り起こす”ことを狙いとした。

越智良江は島田市内の小学生9人による音楽劇「マイ・タウンマイ・デイ」を制作。3か月間お稽古と制作で週末ごとの滞在。小道具・衣装・全てをゼロから創り上げる姿勢に、抜里エコポリスを中心に東京や神奈川からもサポーターが集まった。人生と一日を鉄道と共に進んでいく。2回公演で250名以上が鑑賞。子ども達の成長と作品が観客の人生と重なった。

パク・ソイは交流を重ねるソウルの地域づくり団体とのやりとりで招致。キャンパスを銀河と捉え、人生の苦悩を乗り越えていくべき行程を表現。2か月の滞在中、コツコツと制作を重ね、言葉に苦勞しながらも地域の人との関係が深まった。臼と杵でお餅つきをしてくれた。彼女にしかあらわせない独特な色彩表現が空き家を彩った。

村上慧は2回目の参加。「移住を生活する」をお願いした。7日間で千頭駅～島田駅までプロジェクト実施。交通手段の消滅・減少が著しいエリア。人の出会いが波紋を呼んで敷地を貸してもらっていく。地域全体を“家”と捉えるプロジェクト。日記とドローイングからエリアの普段の暮らしが不思議な形で浮かび上がった。

事業実施 2024年7月～2025年3月

発表期間 2025年2月15日（土）～3月16日（日）
「UNMANNED EXHIBITION」にてプロジェクト成果発表

参加作家 3組（3名）
越智良江（日本）Yoshie Ochi『マイ・タウン マイ・デイ』
パク・ソイ（韓国）Ssoi,Park『Milkway;塵たちはどのように生きていくのか?』
村上慧（日本）Satoshi Murakami 『移住を生活する in 島田』

滞在拠点 Atlier & Guest house スクリハウス
※村上慧は大井川流域（川根本町から島田）の各所も含む

協力 島田市、川根本町、抜里町内会、抜里エコポリス、さよばあちゃんの休憩所、
こども演劇ご協力者、移住を生活するご協力者

公式サイト <https://unmanned.jp/>

《アーティストおよび作品実績》

アーティスト：越智良江

作品タイトル：島田こども演劇「マイ・タウン マイ・デイ」

作品発表場所：抜里スポーツ広場付近（島田市川根町抜里地先）

※雨天のため、抜里地域交流センター（島田市川根町抜里 546）へ変更

〔作品プラン〕

島田市で初開催となるこども演劇を劇作&演出。

12月～3月にかけて滞在による地域へのリサーチを重ねるとともに、

募集により集まった島田市内の小学生9名による稽古を実施し、3月に抜里地域交流センターにて演劇公演を開催した。



〔Artist Profile：越智良江〕

演劇とダンスを学び、2009 年広島で「劇団 Tempa」を創立。2017 年まで代表・作演出として年 2 本のオリジナル公演、広島の演劇文化向上・創客に奔走。代表作に、演劇とコンテンポラリーダンス、ベースとの作品「With Ones」、落語「質作・三年目」、民話を元を書き下ろした「椿の田」「夏色クレヨン」など。文化ホール・高校・企業での WS や講演も行う。（一財）地域創造リージョナルシアター派遣アーティスト。瀬戸内国際芸術祭、大地の芸術祭等参加多数。



〔滞在〕島田こども演劇「マイタウン・マイデイ」お稽古日時より

12 月 8 日（日）13:00～16:00 @島田市川根町 抜里交流センター
12 月 21 日（土）13:00～16:00 @島田市川根町 抜里交流センター
12 月 22 日（日）13:00～16:00 @島田市川根町 抜里交流センター
1 月 25 日（土）13:00～16:00 @島田市川根町 抜里交流センター
1 月 26 日（日）13:00～16:00 @島田市川根町 抜里交流センター
2 月 8 日（土）13:00～16:00 @島田市地域交流センター歩歩路
2 月 9 日（日）13:00～16:00 @島田市地域交流センター歩歩路
2 月 11 日（火・祝）13:00～16:00 @島田市川根町 抜里交流センター
2 月 22 日（土）13:00～16:00 @島田市地域交流センター歩歩路
3 月 1 日（土）13:00～16:00 @島田市川根町 抜里交流センター
3 月 2 日（日）13:00～16:00 @島田市金谷 夢づくり会館
3 月 8 日（土）13:00～16:00 @島田市川根町 抜里交流センター
3 月 9 日（日）13:00～16:00 @島田市川根町 抜里交流センター
3 月 15 日（土）13:00～16:00 @島田市川根町 抜里交流センター
3 月 16 日（日）10:30～／14:00～ 本番@島田市川根町 抜里

ほか地域リサーチにより事前滞在を実施



・日時：3月16日（日）11:00～ / 14:30～（2回公演）
・会場：抜里スポーツ広場付近（島田市川根町抜里地先）

- ・チケット：一般 500 円（高校生以下無料）
- ・申込：申し込みフォームより

あなたの一日、ある日の人生。
9人で奏でるみんなと町の音楽劇

マイ・タウン マイ・デイズ

UNMANNED EXHIBITION
UNMANNED 無人車の音楽劇
大分県立美術館・アートセンター 企画展 2024

2025
3/16 (日)
チケット販売は下記より
<https://unmanned.jp>

① 11:00 ~ ② 14:30 ~ (計 2 回公演)
抜里スポーツ広場
(高田市川柳町(遊里地区)・大月川線「抜里駅」徒歩 5 分)

③ チケット：一般 500 円 (高校生以下は無料)
※座席指定の都合上、高校生以下の方も申し込めをお願いいたします。
※上演時間は約 45 分を予定しています。 ※開場は開演の 20 分前です。
※雨天時は会場が変更となります。(抜里地区交流センター・高田市川柳町(遊里 546))

主催・問合せ：NPO 法人クロスメディアリアル (静岡南高島田市日之出町 4-1-1F 「C-BASE」内)
Tel : 0547-39-3666 Mail : info.unmanned@gmail.com

A group of approximately 15 people are seated in a circle on a large blue mat in a spacious room with high ceilings and wooden walls. They appear to be engaged in a community meeting or discussion. Some individuals are looking towards the center, while others are looking at papers or devices. A person stands in the background near a doorway. The room has large windows on the left and a fireplace on the right.



■当日の様子



《アーティスト及び作品実績》

アーティスト：パク・ソイ（韓国）

作品タイトル：Milkway;塵たちはどのように生きていくのか？

作品設置場所：元鈴木家（島田市川根町抜里 1092）

〔作品プラン〕

「人生の旅路の中で無限の可能性が広がる世の中 Milkway」キャンバス画面をひねって菱形キャンバスまたは三角キャンバス画面を通じて観客を非現実の内面の空間 Milkway(銀河水)に導く。私たちの心であり小さな宇宙、母性愛の空間であるミルキーウェイ(milkyway)は、韓国語では天の川を意味するが、私の創造的空間であるキャンバス画面では、それぞれのキャラクターの叙事とともに生命を誕生させる空間的背景に生まれ変わり、人生の旅路と母性愛を強調する Milk+Way 合成語として使われる。つまり、ミルクウェイはキャラクターの誕生とともに、人生の旅路と消滅、永劫回帰的な循環的アルゴリズムを含んでいる宇宙のような空間である。私は今回の展示で soul LOVEsoul:「赤く染まった山を越えて」の連作と共に Milkway シリーズを披露する。作品から高い山を眺める時の遙かさ、夜空に輝く星を見る時、広大な宇宙の神秘はただの塵に過ぎない人間であることを感じさせると同時に、無限の可能性が広がるような未来に対する希望を逆説的に内包する。山の図像に似た三角キャンバスの上に減産混合された色、舞い散る星が連想されるドリッピング、コラージュ技法で神秘的な夜空を盛り込んで、私という存在の自己肯定性を表現している。今回の展示を通じて島田市民の皆さんに自らの存在を知っていく瞑想的鑑賞法を提示し、未来に対する希望を共に分かち合いたいと考える。



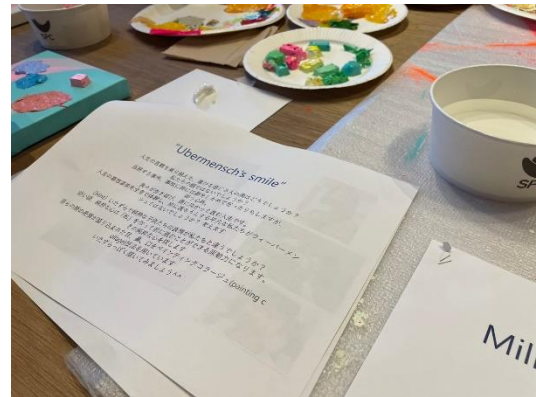
〔Artist Profile : パク・ソイ〕

誠信女子大学一般大学院西洋画科修士及び博士修了、
誠信女子大学西洋画科（ソウル）講師歴任。
国内外で自身の作品展を実施。



〔滞在〕ワークショップ“Ubermensch’s smile”

1月31日（金）16:00～17:00 にワークショップ「Ubermensch’s smile」を開催。
地域住民とともに作品制作を実施した。制作した作品は、自身の作品とともに会場にて展示を行った。



〔韓国アーティストと地域との交流〕

パク・ソイの滞在中は、歓送迎会をはじめ、地域住民による餅つき体験の実施など、滞在期間中に島田市川根町抜里地区の住民との交流を図った。



《アーティスト及び作品実績》

アーティスト：村上慧

作品タイトル：移住を生活する in 島田

制作活動場所：大井川流域（川根本町エリア（千頭駅）から島田エリア（JR 島田駅））にて移住滞在
2月13日（木）～2月20日（木）

作品展示場所：Atelier&Guesthouse ヌクリハウス（島田市川根町抜里 930）
2月22日（土）～3月16日（日）

〔作品プラン〕

東日本大震災をきっかけに発砲スチロールを素材にした自作の家を担いで歩き、国内外で移住を繰り返すプロジェクト。「移住を生活する」を島田市～川根本町エリアで実施。



〔Artist Profile：村上慧〕

1988 年生。

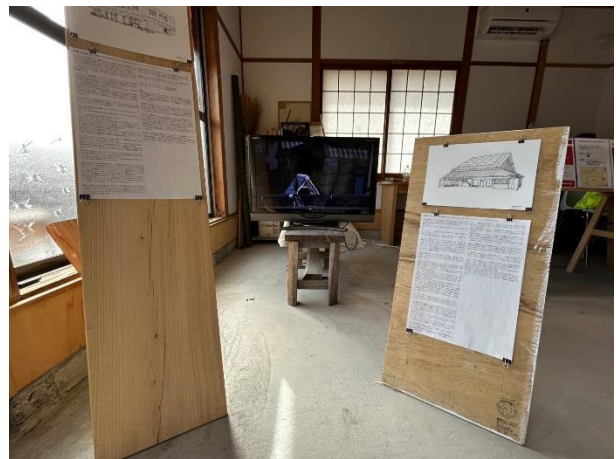
私（わたくし）と公（おおやけ）の関係に着目し、
個人の生活が社会に与える影響を考察している。

近年の展覧会に「移住を生活する」（金沢 21 世紀美術館、石川）など。



〔展示〕 移住を生活する in 島田 記録展示@Atelier & Guesthouse スクリハウス

自身が移動した過程の地図を壁面にあらわすとともに、日記やドローイング、村上氏の「家」、記録映像を交えた特別展示を実施した。



《東アジア（韓国）との文化交流の実践》

〔大井川国際アーティスト・イン・レジデンスを通じた東アジア（韓国）との交流の実践について〕

1) アーティスト選定面談及びアートによる地域づくりにおける交流連携

○韓国からのアーティスト招致及び今後のアートによる地域づくりにおける連携強化を目的とし、ソウルの地域づくり団体である一般社団法人地域奉仕協議会と連携。9月に韓国を訪れ、招致予定アーティストのアトリエ訪問及び当AIR趣旨説明及び意見交換を実施した。加えて光州ビエンナーレ視察を行い、韓国における現代アート及びビエンナーレの状況について学んだ。

<スケジュール>

- ・9月23日 韓国アーティスト面談の実施（アトリエ視察、作品解説、プラン打合せ）
- ・9月23日 地域奉仕協議会との意見交換（文化交流事業の取り組みについて）
- ・9月24日 第15回光州ビエンナーレ視察（光州ビエンナーレ展示館、日本パビリオン他）



2) 韓国ソウル鍾路区で開催された「鍾路区文化祭ビジョン宣布式」への参加

○2025 年度、韓国ソウル鍾路区を中心に東アジア（韓国（ソウル鍾路区）・台湾（台北市）・日本（静岡県島田市））が集い地域における文化イベントと文化交流を行うためのビジョン宣布となる（台湾・台北市はスケジュールの都合がつかず、後日大使館にて宣布式を行った）。

<鍾路（チョンノ）区文化祭ビジョン宣布式>

11 月 15 日（訪問先：韓国ソウル市鍾路区役所）

内容・記念の辞：社団法人韓国地域奉仕協議会理事長

- ・ 歓迎の辞：鍾路民生生活活動本部長・ 祝 辞：鍾路区庁長、クロスメディアしまだ理事長
- ・ ビジョン宣布：社団法人韓国地域奉仕協議会理事長・ 鍾路文化財団理事長・ クロスメディアしまだ理事長・ 鍾路民生生活活動本部長・（社）持続可能都市研究所理事長



3) 韓国からの視察団受け入れ対応

○韓国ソウル鍾路（チョンノ）区より、国会議員、鍾路区庁長以下、行政職員、地域奉仕協議会 10 名の視察団の受け入れを行った。「UNMANNED EXHIBITION」視察、島田市及び静岡県にて面会を実施した。また、抜里エコポリスも歓迎夕食会に参加し、国や立場を超えた交流を図った。視察団は主に、アートの空き家活用に感銘を受けていた。これは鍾路（チョンノ）区が歴史的建造物を多く残すエリアでありながら、空き家問題という共通の課題を有しているところが大きかった。今後の文化交流及び連携体制を強固にしながらアートによる地域づくりの促進について共通認識を図った。

[スケジュール]

■1 日目：2025 年 2 月 24 日（月）

羽田空港到着、新幹線移動

静岡駅着 バス移動

抜里エリア到着、芸術祭鑑賞

島田市役所 副市長と面会、歓談

島田市内（三布袋）にて会食

■2 日目：2025 年 2 月 25 日（火）

静岡県庁にて面会、歓談

静岡駅から新幹線移動

品川駅着

東京エリア見学



1) 韓国アーティスト作品売り上げの静岡県内団体への寄付実施

○令和 5 年度「東アジア文化都市静岡 2024」アーティスト・イン・レジデンス事業にて招致を実施した韓国人アーティスト LEE ISOO。UNMANNED 無人駅の芸術祭／大井川 2023 にて販売を実施した「ミニ Ddobok (トボギ)」の売上金額を、全国心臓病の子どもを守る会 静岡県支部に寄付を実施した。

「ミニ Ddobok」は、Ddobok という黄色い犬をモチーフとしたアーティストの代表作のミニチュア版。かつて LEE ISOO が共に暮らした家族としての黄色い犬は、心臓病で命を失っている。そういった経緯から、芸術祭会期中に、インフォメーションセンターにて販売を行った「ミニ Ddobok」の売り上げは、心臓病支援のための活動へ使ってほしいとの意向があり、寄付贈呈式を実施。全国心臓病の子どもを守る会 静岡県支部の活動の一助となった。

「ミニ Ddobok」売上金贈呈式

日付：2024 年 6 月 9 日 場所：コワーキングスペース C-BASE

寄付金額：60,000 円

出席者

- ・全国心臓病の子どもを守る会静岡支部代表 山下さま
- ・NPO 法人クロスメディアしまだ 理事長大石歩真・事務局長兒玉絵美
- ・LEE ISOO (アーティスト・韓国ソウルよりビデオメッセージ)



《広報等の実績》

■チラシ（島田こども演劇出演者募集）

募
集

UNMANNED無人駅の芸術祭／大井川 連動企画

島田こども演劇に出演しよう！

劇作家・演出家 越智良江（おっちー）による
こども演劇の連続プログラム

みんな“おっちー”と一緒に“えんげき”をやってみよう！
新しく楽しい世界の扉がひらくよ！



「大地の芸術祭」では広場に基つき、学校や病院と
他種で結わり体験も！演技に生かされています

□募集人数：小学生1年生～6年生

□定 員：10～15人程度

□期 間：12月～3月にかけてお稽古をします
（1回3時間程度、日程は裏面参照）

□公演日：2025年3月16日（日）2回公演
（島田市川根町抜里にて本番公演を予定）

□参加費：3,000円

□主催：NPO法人クロスメディアしまだ

□申込：フォーム、メール等（裏面参照）



劇作家・演出家である
越智良江がエリア
をリサーチしたり、
子ども達との会話を
軸に制作する新作の
演劇です。
ぜひ楽しくご参加
ください！

【お稽古スケジュール】＊お稽古は屋内、本番公演は屋外での実施となります。
（全て18時～19時に開催。会場は川根エリアと島田エリアを渡って開催）

①12月8日(日) ②12月21日(土) ③12月22日(日) ④1月25日(土) ⑤1月26日(日)

⑥2月8日(土) ⑦2月9日(日) ⑧2月11日(火) ⑨2月22日(土) ⑩3月1日(土) ⑪3月2日(日)

⑫3月8日(土) ⑬3月9日(日) ⑭3月15日(土) リハ・参加必須 ⑮3月16日(日) 本番・参加必須

※原則全てのお稽古日にご参加いただけるお子様を募集（7回以上はご参加下さい）
※子ども達同士のお泊り交流会なども企画します（12月21・22実施・参加費別途）

島田こども演劇の出演者募集！

演劇の魅力は、身体を使って表現する楽しさはもちろん。自分とは違う誰かになって考え方や感じ方を体験し、制作を通して主体性を育むことです。年明け3月の公演を目指し、お稽古を重ねるプログラムです。

劇作家／演出家の越智良江は子どもたちとの会話や遊びからアイデアを汲み上げ演劇を作り上げるアーティストです。今回、島田市にて公演に出演する小学生を募集します。子どもたちにお稽古を通して演劇の楽しさを体感してもらい、本番では子ども達のキラキラした笑顔と成長をきくと見ることが出来ます。

みんな“おっちー”と一緒に“えんげき”をやってみよう！新しく楽しい世界の扉がひらくよ！



「大地の芸術祭」よりお稽古の一場面








＊講師：越智良江（劇作家・演出家）
演劇とダンスを学び、2009年広島で「劇団Tempa」を創立。2017年まで代表・作演出として年2本のオリジナル公演、広島の演劇文化工場・劇客に奔走。代表作に、演劇とコンテンポラリーダンス、ベースとの作品「With Ones」、落語「眞作・三年目」、民謡を元に書き下ろした「稗の田」「夏色クレヨン」など。文化ホール・高校・起業でのWSや講演も行う。（一財）地域創造リージョナルシアター派遣アーティスト。瀬戸内国際芸術祭、大地の芸術祭等参加多数。

[申込み方法] ※応募締切：12月4日
フォーム（QRコード）、メール、電話にて申込ください
 ①児童名 ②性別 ③小学校名 ④学年 ⑤住所 ⑥連絡先 ⑦保護者名 ⑧服・靴のサイズ

[申込&問合せ] NPO法人クロスメディアしまだ

TEL：0547-39-3666（平日9:00～17:00）
MAIL：info.unmanned@gmail.com



04 農業×ART =====

半農半アート・アーティスト・イン・レジデンス

農業とアート（アーティスト）の2つの課題と強みを相互に補完するアーティスト“農ワーク“インレジデンスの実証事業を行うことで、農業の担い手不足や耕作放棄地などを活用した農業を軸とした新たな複合経営の可能性を探る取組を行った。アーティストを誘致することで、商品開発や体験の場など農業を新たな視点からとらえた地域独自のブランドの確立と継続的な就農へつなげた。公募で選定した2組のアーティストが滞在制作を行った。（公募申込17組）加えて抜里エコポリスと共に大地の芸術祭及び棚田バンクの視察研修も実施。耕作放棄茶畑を活用した「茶ばらバンク」の仕組づくりの大きなヒントとなった。次年度運営をスタートしていく。

柏原瑚子は茶染めに挑戦しながら、染めを軸としたインスタレーションを実施。ほうじ茶、耕作放棄茶葉、ぬくり園での製茶の過程で出る茶葉など様々な茶で染めを実験。ヌクリハウスガレージに染め工房を設置。今後は宿泊や滞在の体験プランの活用も視野に入れていく。

ペーイシはメキシコ人レネとポルトガル人のマリアナのユニット。毎日集落を散歩していて、自由な視点で風景や生活、茶業を捉えた作品を創っていった。陽気で明るいレネの入り込む力と、都市と農村の関係について深く考察するマリアナ。農作業のファッションやビニールハウス、種のパッケージ、寄り合いなど若い2人の瑞々しい感性で集落と茶業の魅力を切り取っていった。

事業実施 2024年4月 - 2025年3月

参加作家 柏原瑚子
Peixz（ペーイシ）：マリアナ クレメンテ、レネ・アバロア、他2名

滞在拠点 Atlier & Guest house ヌクリハウス

連 携 抜里エコポリス、抜里町内会、NPO 法人クロスメディアしまだ、
有限会社川根茶ぬくり園

協 力 島田市、さよばあちゃんの休憩所、お茶染め Washizu.、株式会社ミモザ、
NPO 法人里山協働機構、NPO 法人市民活動ネットワークひとサポ、
NPO 法人雪ふる里村

公式サイト <https://unmanned.jp/>
※アーティスト情報掲出場所

≪地域農業への調査の実施≫

[地域農業への調査（ヒアリング）の実施]

地域内農業の担い手に向けた調査の実施：6月～10月

調査内容は、農作業等の労働人材の変化と需要の有無及び、地域活動・コミュニティ活動の担い手不足の状況、外部人材の活用について（機会の有無）、創造的人材（アーティスト等）に期待することなど。ヒアリング調査を実施。

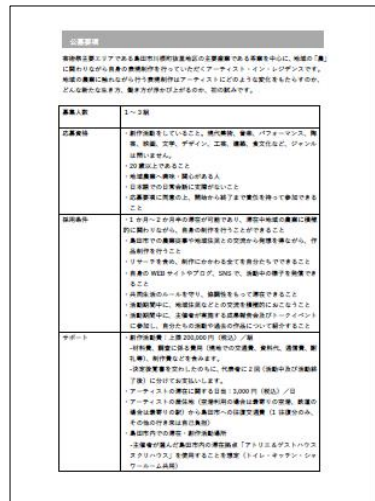
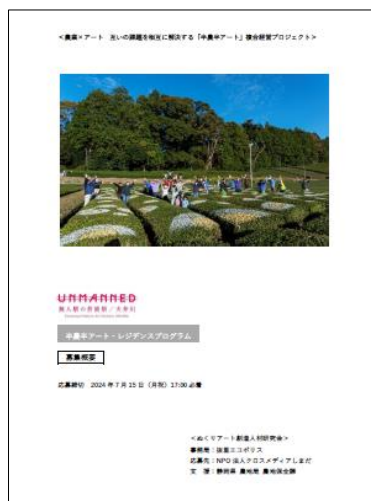
日付	調査先	業種・事業内容
令和6年6月8日	げんろく農園	農業（茶、自然薯、ブドウ他）
令和6年7月6日	有限会社ぬくり園	川根茶の栽培・製造・販売
令和6年10月17日	株式会社杉本製茶	緑茶精製加工、卸売り、小売

≪地域農業への参画者の公募≫

[半農半アート・アーティスト・イン・レジデンス公募及び参加アーティストの決定]

地域内農業へ参加するアーティストの全国公募を実施。農作業への参加意欲、農業を通じた新たな視点の創出などを踏まえ、17組の応募者の中から2組のアーティストの参加を決定した。

[公募用資料] WEB サイト及び SNS へ掲載



《アーティスト及び作品実績》

アーティスト：： 柏原瑚子（日本）

作品タイトル：耕作放棄地茶葉を活用した「染め」を軸とした実験的インスタレーション

作品設置場所：5 班集会所（島田市川根町抜里 375 - 2）

〔作品プラン〕

演劇体験を通じて言葉や文脈に興味を持ち、循環型農業や土の仕組みを学んでいる。

耕作放棄の茶樹による草木染の布で言葉の交換を表現したインスタレーション制作に取り組み、地域の価値を新たに見出している。



〔Artist profile：柏原瑚子〕

1998 年、東京都出身。幼少期の演劇体験を通して、語り手によって変容する言葉の意味や文脈に興味を持つようになる。自分とは異なる他者と共に生きるには？というテーマに対して循環型農業（パーマカルチャー）や土の仕組みから大きなヒントを得て学んでいる。今年の春には東京藝術大学院グローバルアートプラクティス修士課程を修了予定。

〔滞在〕ワークショップ

耕作放棄茶葉を活用した、茶染め商品の検討及び研修、試作：11 月

耕作放棄となった茶畑にて採取した「茶畑」を原料とした、茶染め商品の制作に向けた、検討及び研修、試作を実施した。染めアトリエを設置し、染め職人による指導ワークショップを実施した

< 茶染め研修（10 月 23 日、駿府の工房 匠宿） >



< 茶染めアトリエ工房の設置及びワークショップの実施（11 月 8 日） >



《アーティスト及び作品実績》

アーティスト：Peixz（メキシコ・ポルトガル（・日本））

作品タイトル：茶畑で泳ぐ

作品設置場所：清次のちゃべや

〔作品プラン〕

川根町抜里での滞在を通じ、茶畑の波のような風景と川の音に触れ、地域とお茶の深いつながりを感じた。大井川の恵みと水の生命力をテーマにした作品。Peixz（ペーイシ）とは魚の意味。魚が海を泳ぐように無限の自由を作品を通じて伝えたいと考える。



かつての地域内茶業の製造拠点であった茶部屋を活用したアート作品の設置を行った。アート作品においては、滞在及び農業研修を通じた、地域の気づきや風景などを、独自の視点から可視化できる内容とした

〔Artist profile : Peixz (ペーイシ)〕

マリアナ クレメンテ (ポルトガル、ポルト在住)

国際貿易学位取得。IPCA イラストレーション及びアニメーション修士課程、FBAUP イラストレーション専攻。色のコントラストの対比を使い、希望と人間の欠点・恐怖を表現する。反省と内省・人類の暗い側面や逆境に立ち向かう強さを、作品を通し伝える。

レネ・アバロア (メキシコ、グアダラハラ在住)

ESARQ (建築高等学校) 視覚芸術学士取得。ミラノ NABA 大学ディプロマ取得。これまでに3か国でレジデンスプログラム参加、8か国で作品制作展示を行う。

テーマは「未知の空間」の概念探求。新しい場所に行く時、いつも完全な不確実性がある。そこで新しいことを体験すると、以前いた場所と似た要素が見つかり、比較やつながりが見える。ウィトゲンシュタインの言葉「人類の共通の行動は、未知の言語を解釈するための参照システム」である。絵画、写真、サウンドアート、インスタレーション等で制作する。

〔滞在〕ワークショップ 地域での農業研修の実施

参加アーティストは、滞在をしながら、島田市川根町抜里地域の耕作放棄地での作業（お茶刈り、お茶こぎなど）を実施した。また有限会社川根茶ぬくり園での研修や地域団体との意見交換などを通じて、当地主要産業である茶業における理解と実作業を試験的に行った。

■農業活動の実施（茶畑の刈り取り及び農業レクチャ）

実施日：10月5日、10月13日、10月18日

参加者：ペーイシ（マリアナ、レネ）、柏原瑚子、地域団体





《地域との交流》

プロジェクト期間中は、地域に住む人たち主催によるアーティスト歓送迎会を行った。国内外から集まったアーティスト達は、温かいサポートを行った地元の皆さんへ、感謝を込めて母国の手料理を作り振舞った。翻訳アプリを使いながら、人々や文化の交流を深めた。



《農業×ART》

茶ばらバンク制度設立に向けた調査・検討等の実施

お茶を中心とした耕作困難農地や耕作放棄農地に関する課題への対応策とし、域外（県内外）からの支援を受けながら茶畑の維持管理を行う「茶畑への基金制度／茶ばらバンク」の立上げに向けた調査・検討等を実施した。

1 [TECH BEAT Shizuoka 2024 - 静岡に共創の明日を咲かせよう へのブース出展]

静岡県内企業と国内外のスタートアップ企業とのビジネスマッチングを支援することが目的の展示イベント「TECH BEAT Shizuoka 2024」にブース出展を実施。企業等に向けた研修動向などの聞き取りとともに、耕作放棄農地を活用し「アート思考」を学ぶフレームワーク研修の紹介を実施した。

< TECH BEAT Shizuoka 2024 開催概要 >

日時: 2024 年 7 月 25 日(木)～27 日(土) 10:00～17:00

出展日: 2024 年 7 月 25 日(木)アート×産業エリア

会場: グランシップ(静岡市駿河区)

参加費: 無料(要事前登録)



茶ばらバンク設立に向けては、域内及び首都圏の企業との連携が有効であり、2018 年より地域芸術祭「UNMANNED 無人駅の芸術祭／大井川」の開催を通じ、アートによる地域づくりの実践を重ねているのが島田市抜里地区である。企業においては、茶ばらバンクのメンバーとなることで、耕作放棄地となった茶畑を活用したアートの視点と地域づくりの視点をかけあわせた企業向け研修への参加が可能となる。近年、ビジネスの世界でも「アートや地域活動を通じた人材育成」が注目を集めています。それは、分析・論理・理性に軸足を置いた経営の視点が当たり前だったビジネスの視点だけでは、これからのコト社会で重視される「ロマン」「ストーリー」「懐かしさ」などの自己実現的な消費モデルの対応が容易でなくなっているためである。これらに対応するべく“美意識”や“感性”のブラッシュアップが求められている。企業人材のさらなる活躍の場を広げるとともに地域課題の解決につなげることができる。企業側のメリット、地域側のメリットを相互に結び付けていく必要がある。



2 「島田榛北地区労働者福祉協議会「若者の会」茶ばら農業研修の受入モデル実施」

島田榛北地区労福協「若者の会（20代～30代の勤労者）」メンバーによる耕作放棄茶畑での農業研修・地域づくりに関する視察研修の受入れを実施。地域の資源でもあり課題でもある茶畑での農業体験や、ミニ講座、地域住民の方々との振り返りワークショップなどのプログラムを行った。若者の視点から農業に関する課題、地域コミュニティの抱える課題を考える機会の創出と、抜里エコポリスをはじめとした地域団体との交流を通じて、若者参加者が主体的に地域に興味を持ち発見できるプロジェクトを実践した。研修にあたっては、農業研修に加え、ワークショップや、ミニセミナーを開催。幅広い視点から学びの提供と参加者間の交流を促進できた。

<実施概要>

日時：2024年9月21日(土)10:00～15:00

場所：島田市川根町抜里地区 参加者：29名

内容：

- ・茶畑作業研修（耕作放棄茶畑での茶刈り作業、地域団体による課題レクチャ）
- ・セミナー（テーマ：地域が主役となるプロジェクトとは）
- ・ワークショップ研修（里山散策・地域ピクニックワークショップ）
- ・振り返り（意見交換、耕作放棄地茶葉を活用したリーフ茶進呈）



3 「半農半アート」現地研修の実施／報告資料

「棚田バンク制度運営基盤と大地の芸術祭における農業アートプロジェクト」をテーマに、新潟県十日町市にて現地視察研修を実施した。

研修テーマ：棚田バンク制度運営基盤と大地の芸術祭における農業アートプロジェクトについて

受け入れ先：NPO 法人里山協働機構（新潟県十日町市松代 3743 番地 1 代表北川フラム）

研修日時：2024 年 10 月 24 日(木)～26 日（土）

研修者：抜里エコポリス（6 名）、NPO 法人クロスメディアしまだ（2 名）

場所：受け入れ先事務局での研修、現地視察、意見交換

研修内容「現地研修」

- ・棚田バンク制度講義（NPO 法人里山協働機構）
- ・現地視察研修（大地の芸術祭、うぶすなの家、越後まつだい里山食堂、棚田バンク）
- ・意見交換（NPO 法人里山協働機構、NPO 法人市民活動ネットワークひとサポ、東部地区振興会、NPO 法人雪ふる里村）

※研修先団体概要：NPO 法人里山協働機構

世界最大級の国際芸術祭であり、日本中で開催されている地域芸術祭のパイオニア「大地の芸術祭」で生まれた作品や施設、プロジェクトを通年事業として運営し、越後妻有を魅力ある地域にしていけるために設立。地元出身者や県内外からの移住スタッフで構成され、3 年に 1 度の芸術祭はもちろん、合間 2 年間の作品メンテナンス、企画展・イベント・ワークショップの開催、農業、ツアーの実施、グッズやお米の販売、食宿泊施設運営、それら全ての広報や誘客促進を主な業務としている。

研修日程

<10 月 24 日（木）>

- ・現地視察研修（大地の芸術祭、百年の館）
- ・意見交換（NPO 法人雪ふる里村）

〔所感〕現地視察研修においては、大地の芸術祭の屋外アート作品を中心に、大割野商店街、絵本と木の実の美術館を訪れた。空き店舗、廃校、公園など、通常であれば遊休地となっていく様々な空間にアート作品が点在することで、地域の資源の再生と有効的な活用につながる姿を感じることができた。百年の館は、NPO 法人雪ふる里村が運営する古民家の交流滞在施設であり、荒廃が進む地域の里山や耕作放棄地を保全活用するエコツーリズム交流の拠点として活用されている。雪口の伝統的な施設を移築し、1 日 1 組限定（一等貸切型）にて宿泊対応をしている。NPO では、田植えや稲刈り、古民家の掃除などをイベントとして県外から人を受入れ実施している。





<10月25日（金）>

- ・現地視察研修（大地の芸術祭、うぶすなの家）
- ・意見交換（NPO 法人里山協働機構、NPO 法人市民活動ネットワークひとサポ、東部地区振興会）

〔所感〕 ボランティアサポーター組織「こへび隊」によるガイドで大地の芸術祭の作品を巡った。担当ガイドは 70 歳近くであるが非常に元気に越後妻有の土地に関する説明や歴史、農業に関する説明を実施していただき、多くの高齢の方々がツアーガイドや作品制作スタッフとして芸術祭を支える姿を垣間見ることができた。観光名所となっている清津峡トンネル作品、廃校を活用した清津倉庫美術館、時の回廊高倉博物館、奴奈川キャンパスなどを巡った。うぶすなの家は、地元のお母さんたちが育てた野菜で作る日替わりの小鉢と、シェフ（東京・イタリアン）の監修によるメイン料理を提供する古民家レストラン。メニュー構成は、通常のセット（きつね）とヴィーガン対応セット（たぬき）の 2 種類のみとなる。提供している米は地元、慶地の棚田で採れた棚田米となる。中心部から離れた山間地に位置するが、うぶすなの家を目指し訪れる国内外の人々の多さに驚くとともに、農業と食を通じて住民たちが活躍する姿に感銘を受けた。意見交換では、NPO 法人里山協働機構に加え、大地の芸術祭の運営を支える市民団体である NPO 法人市民活動ネットワークひとサポ、東部地区振興会から、現場の話を聞くことができた。NPO 法人市民活動ネットワークひとサポは、中心市街地で 2 つの施設管理を実施するとともに、各種イベントの実施をしている。東部地区振興会は大地の芸術祭会期中、主要施設の作品管理などを請負い、多くの高齢者が活躍している。



<10月26日(土)>

- ・講義：まつだい棚田バンク制度運営基盤について（NPO 法人里山協働 新井沙織氏）
- ・現地視察研修（大地の芸術祭、越後まつだい里山食堂、棚田バンク）

〔所感〕まつだい棚田バンク制度に向けた耕作放棄地保全への取り組みは2003年からスタートをし、試行錯誤を重ね現在の仕組みに行きついている。アート作品の設置会場となる棚田での後継者不在と農業担い手の減少が棚田バンク設立への動きとなる。個人会員（標準コース、小口コース）、企業コースがあり、年3回の田植え、稲刈りなどのイベントへ参加できる権利と、毎年11月に口数に即したお米を発送している。会員は県外（主に首都圏）が多く、企業会員が近年は増加している。通常の農作業はNPOスタッフ2~4名が担当し、月に1回メールマガジンで普段の農作業の様子を配信することで会員とのコミュニケーションとなっている。イベントは、5月、8月、9月の日程を固定し松代エリアにて実施をする。70名から200名の会員が参加する。イベント時には、地域住民が協力のうえ、作業を楽しむ機会となる。約3時間の作業となるが、参加者は農作業に加えて地域との交流を求める側面が強いため、夕方には懇親会（夏にはBBQ）などを実施する。イベント時の、昼食や宿泊、懇親会参加の有無、長靴レンタルなど、参加者毎に受け入れ対応を実施している。企業会員においては、企業研修（新人研修など）の受け入れ（アテンド、コーディネート）を実施している。棚田バンク制度により、多様な人の力が関わることで棚田や里山、景観を保全するプラットフォームとなっているとともに、農業の担い手の創出（NPOでの農業担当者の雇用）につながっている。

現地視察研修においては、棚田をテーマにした作品（イリア&エミリア・カバコフ）、星峠の棚田、棚田の風景をテーマにし地域の食を提供する越後まつだい里山食堂への視察を実施した。また、大地の芸術祭運営者とサポーターこへび隊による毎朝の朝礼へも参加をさせて頂き、状況共有や役割分担の方法を学ぶことができた。



4 「茶ばらバンクメンバーへの返礼品の検討及び試作の実施」

「ART×TEA = ARTEA」。アートの無限の創造性と、静岡県のお茶の無限の可能性を組み合わせたら、どんな新しいことが生まれるでしょうか。

2024年度は、NUKURI ARTEA PROJECT（ぬくりアルテアプロジェクト）として、現代アートの視点から静岡県のお茶を新たに捉えなおす商品開発プロジェクトを実施。茶農家とアーティストやサポーターが協力し新たなお茶商品の開発に取り組んだ。拔里茶商品に加え、茶を活用した食コンテンツの開発や染めものなど、新たな視点からお茶を捉え拔里茶ブランドの創出を検討した。翌年度以降は拔里地域の魅力を伝えるための商品を茶ばらバンクの「返礼品」とするとともに、お茶刈り体験や自然体験など、国内外の方々が拔里地域を体感して楽しむ「コト」の提供を、茶ばらバンクの特典プログラムとして検討する。

「良質な川根茶をアーティストによる新たなパッケージ茶商品として Re:ブランディング」

○連携アーティスト：Peixz（マリアナ・クレメンテ/レネ・アバロア）



2 「茶ばらバンクに向けた制度設計の検討」

「茶ばら」ってなんだろう？

＝「お茶畑」

・静岡県島田市の一部地域で呼ばれている茶畑を指す方言

・語源は諸説あり・・・

・「茶ばら」
茶をたくさん飲んだときの喉が痛い。
また、茶をたくさん飲んで湿度を飽らすこと



「茶ばら」ってなんだろう？


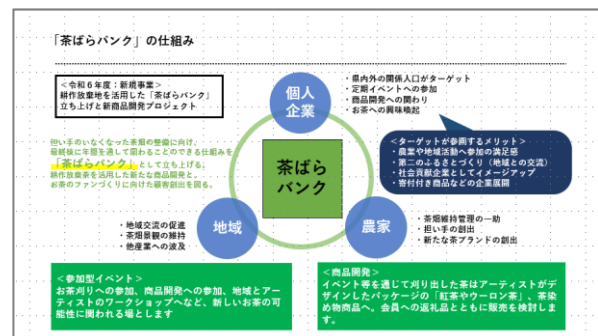
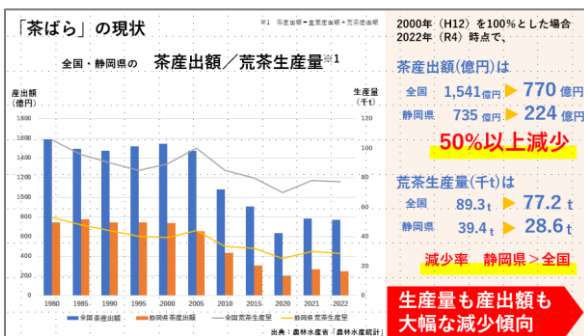
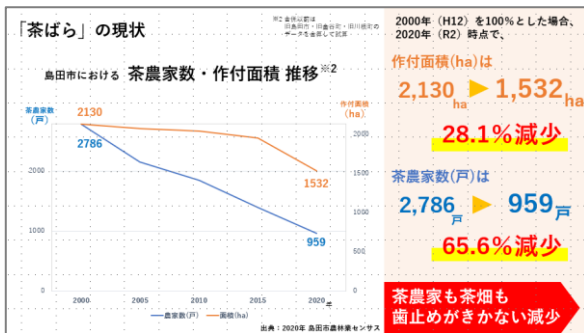
＜現状と課題＞
特に中山間地域を中心に、
耕作放棄された茶畑が年々拡大傾向

主な要因
**茶葉の価格低迷
後継者不足**

耕作放棄地増加による影響

- 野生動物の住処となり**獣害の温床に**
- 水資源や生態系などの**周辺環境への悪影響**
- 地域の景観が損なわれる etc..

島田市の耕作放棄地
4年間で2倍近くに

《農業×ART》

Cha-OI 商品開発プロジェクト

茶葉を活用した新たな「食」の新商品開発・アーティストを協働した新パッケージの開発、茶葉の新たな活用を探るの3つの目的の元、「緑茶デュカ・緑茶ビスコッティ」（食の新商品開発）・「ぬくり園の新パッケージの提案」・「茶染め工房の設置及び茶染てぬぐいの提案」の3つのプロジェクトを実施した。EXHIBITION 会期中に緑茶デュカと緑茶ビスコッティの試食会を実施にアンケートを収集。また贈答品として活用できるパッケージデザインの開発も行った。完成した試作やレシピを元に今後ふるさと納税返礼品や販路の獲得を実施していく。茶染め工房においては、宿泊体験プラン等ツーリズムコンテンツとしての販売も視野に入れていく。



05 産業×ART =====

企業連携型アーティスト・イン・レジデンス

地域におけるアートプロジェクトの推進によるアートと経済社会の好循環構築に係る実証事業

アーティストの独自の視点による企業へのリサーチから、企業価値の向上につながる新たな提案を行った。経済産業省事業による委託事業として実施。全国3都市の中の1つに選定され行った企業版AIR。島田市を象徴する日本酒と製茶にスポットをあて2人のアーティストを派遣した。プロダクトや商品開発ではなく、新しい企業リサーチにアーティストが関わることができないか、ということの一つの狙いにした。ゴールを設定しない（できない）ことがアーティスト・アートの最大の特徴である強みだと考えた。

TAKAGIKAORU を杉本製茶に派遣。社員、地域の人、来訪者に「お茶」を新たな視点で捉えるための装置としての作品を出現させ、そこで得たものを企業に届けた。「茶ノ木もぐり」は茶畑の広がる抜里集落と社屋の2つに制作。中でお茶事をしてお茶を捉える時間を創出した。消費量の減少、後継者不足等課題にばかり目がいきがちな茶業だが、そこで出てくるキーワードは国外視点までもを含めた可能性に満ちたキーワードばかり。域内から、社内から根底から視点が変わるようリサーチにつながった。

木村健世を島田市内唯一の酒蔵、大村屋酒造場に派遣。「醸される」は麴を発酵させて酒ができていく意味と同時に（議論などが）引き起こされるという意が。市民の人生に寄り添ってきた酒の記憶を文庫目録として市内に開示、街を回遊して会いにいける形をすることで、今度は読んだ人自身の動きが、街の中で“醸していく”装置になっていく。製品を卸して終わりという製造業に対し最終消費者の声を作品に昇華して届けるという、製造業全体への気づきと発見が生まれるようなプロジェクトとなった。

事業実施	2024 年 1 月～2025 年 3 月
成果発表	2025 年 2 月 15 日（土）～3 月 16 日（日） 「UNMANNED EXHIBITION」にて公開制作、成果発表
参加作家	2 組（2 名） TAKAGI KAORU 「茶ノ木もぐりに招待します。」 協働パートナー：杉本製茶(株) 木村健世「醸される酒/醸された人とまち」 協働パートナー：(株)大村屋酒造場
協力	杉本製茶(株)、(株)大村屋酒造場、抜里エコポリス 島田市内外の飲食店などの事業者、個人

《アーティスト及び作品実績》

アーティスト：TAKAGI KAORU

作品タイトル：茶ノ木もぐりに招待します。

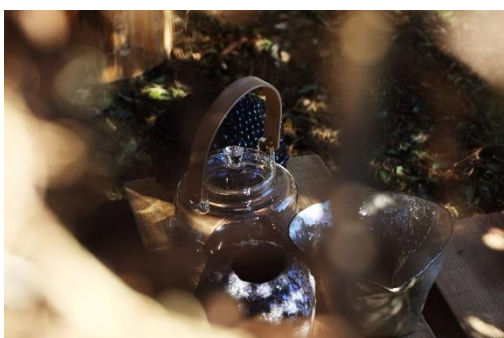
作品設置場所：つなくりの茶ばら（抜里）、杉本製茶(株)敷地内（金谷）

杉本製茶(株)へのリサーチにより、社員や地域の方々と対話をする空間（茶ノ木もぐり）を制作。そこで生まれる様々な化学反応をもとに企業価値の向上につながる提案を実施。「セントラルパークで緑茶を楽しめるピクニックセット」の販売や緑茶生産地へのツーリズムとしての海外顧客の受け入れ等の可能性が浮かんだ取組となった。

<つなくりの茶ばら（抜里）>



<杉本製茶(株)（金谷）>



〔ワークショップ〕

TAKAGI KAORU とつくる“お茶時間”『茶ノ木もぐりに招待します。』

内容：茶の木と志戸呂焼年度から作られた「茶ノ木もぐり」に潜って、みんなでお茶を飲む楽しみを作家 KAORU に教えていただきたいです。KAORU からはこの作品の由来やこれからのお茶とかかわって行きたい真意のお話をしたいです。

1. 抜里エリアにて

日時：2025 年 2 月 23 日（日）13:30～15:30

場所：つなくりの茶ばら（抜里駅から北西に徒歩 5 分）



2. 杉本製茶㈱にて

日時：2 月 25 日（火）

場所：杉本製茶㈱敷地内



《アーティスト及び作品実績》

アーティスト：木村健世

作品タイトル：醸される酒/醸された人とまち

作品設置場所：(株)大村屋酒造場本社敷地内ほか

島田市内の居酒屋や酒店を取材し、(株)大村屋酒造場のお酒にまつわる個人の記憶を収集し、文庫目録にまとめた。島田市唯一の酒蔵の日本酒が個人の人生にどのようによりそってきたかを可視化させた。

市民にとっては唯一の酒であり、誇りをもって愛飲されていることが、(商品を)店舗等に卸して終わり。という製造業の性質上、意識されてこなかったことに着目し、リサーチを重ねた。今後はストーリーを飲食店でのランチョンマットにデザインするなどの提案が行われている。

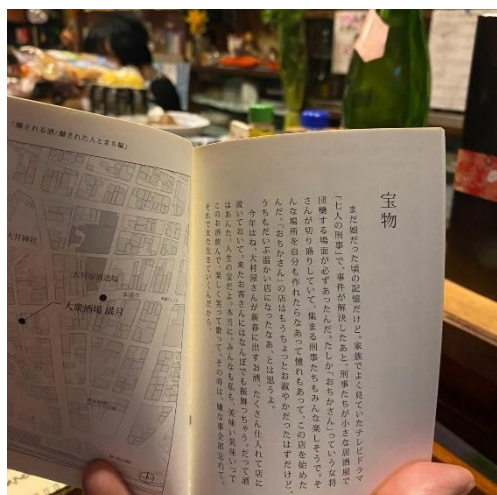


〔ワークショップ〕

木村健世と巡る大村屋さんの日本酒探訪ツアー （3月8日実施）

内容：アート作品を片手に、アーティストと「はしご酒」はいかが？作品のこぼれ話をききながら、エピソードに登場する地酒を味わおう。3軒のはしご酒を実施した。

島田市をはじめ、静岡市、東京都、鳥取市からの参加がありアーティストにより物語を味わいながら街を回遊するはしご酒イベントを実施。



06 UNMANNED EXHIBITION =====

UNMANNED EXHIBITION UNMANNED 無人駅の芸術祭/大井川 年間プロジェクト成果展

大井川アーティスト・イン・レジデンス、半農半アーティスト・イン・レジデンス、地域におけるアートプロジェクトの推進によるアートと経済社会の好循環構築に係る実証事業、ぼいんぼいん山 ART TRIL プロジェクトの成果発表展という形式において実施。ガイドツアーや関連イベントなども実施した。

会 期 2025 年 2 月 15 日（土） - 3 月 16 日（日）
30 日間

会 場 静岡県島田市川根町抜里エリア他

参加作家 計 12 組（五十音順）：
東弘一郎・越智良江・柏原瑚子・形狩りの衆・木村健世・小山真徳・さとうりさ・
TAKAGIKAORU・Ssoi,Park・西田秀己・村上慧・peixz（マリアナ・クレメンテ/レ
ネ・アバロア）

主 催 NPO 法人クロスメディアしまだ

助 成 静岡県「文化芸術による地域振興事業」
島田市「アートによる地域づくり推進事業」
経済産業省「地域におけるアートプロジェクトの推進によるアートと経済社会の好
循環構築 に係る実証事業」

公式サイト <https://unmanned.jp/>

運営事務局 UNMANNED 無人駅の芸術祭/大井川 運営事務局
（NPO 法人クロスメディアしまだ）
静岡県島田市日之出町 4-1-1F（C-BASE） TEL：0547-39-3666

《アーティスト及び作品実績》

計 12 組のアーティストが参加し、作品や表現の発表を行った。エリアは基本的に抜里地域

	アーティスト	作品タイトル	作品設置場
1	東弘一郎	茶畑のサイクリスト	しまの空き地
2	越智良江	マイ・タウン マイ・デイ	抜里地域交流センター
3	柏原瑚子	耕作放棄地茶葉を活用した「染め」 を軸とした実験的インスタレーション	5 班集体所
4	形狩りの衆	顔の家	天野邸
5	木村健世	醸される酒/醸された人とまち	大村屋酒造場（島田駅前）
6	小山真徳	てのひら	茶畑
7	さとうりさ	本人 地蔵前 3 / サトゴシガン	ぼいんぼいん山 うりやのしんや
8	TAKAGIKAORU	茶ノ木もぐりに招待します。	茶畑/ 杉本製茶（金谷）
9	Ssoi,Park	Milkway 波（Wave）	元鈴木家
10	西田秀己	境界のあそび場Ⅱ/ ちゃばらのカーテン 境界のあそび場Ⅳ/ 音の要塞 大井川アートキャンプ講師	茶畑（抜里駅） ぼいんぼいん山（抜里駅） ヌクリハウス
11	村上慧	移住を生活する in 島田	川根本町～島田市
12	Peixz（マリア ナ・クレメンテ / レネ・アバロ ア）	茶畑で泳ぐ	清次のちゃべや

《芸術祭オフィシャルイベント》

■みんなあつまれオープニング寄り合い

日時：2月15日（土）16:30～

場所：ヌクリハウス（島田市川根町抜里930）

参加費：1000円



■公式ガイドツアー「集落アートハイキング」

日時：①2月22日（土） ②3月8日（土） 13:30～15:00

集合場所：大井川鉄道抜里駅

参加費：1000円（ガイド代）



■目指せコンプリート！スタンプラリー

UNMANNED EXHIBITION スタンプラリー
開催期間 2025年 2月15日（土）～ 3月17日（日）

ぬくりエリア へアート作品と地域を巡ってスタンプを蓋めよう！
コンプリートしたら素敵なプレゼントを贈呈します！

01 ぬくりハウス （アート作品を鑑賞し、スタンプを蓋めよう）	02 大井川鉄道 （アート作品を鑑賞し、スタンプを蓋めよう）	03 大井川鉄道 （アート作品を鑑賞し、スタンプを蓋めよう）	04 大井川鉄道 （アート作品を鑑賞し、スタンプを蓋めよう）
05 大井川鉄道 （アート作品を鑑賞し、スタンプを蓋めよう）	06 大井川鉄道 （アート作品を鑑賞し、スタンプを蓋めよう）	07 大井川鉄道 （アート作品を鑑賞し、スタンプを蓋めよう）	08 大井川鉄道 （アート作品を鑑賞し、スタンプを蓋めよう）
09 大井川鉄道 （アート作品を鑑賞し、スタンプを蓋めよう）	10 大井川鉄道 （アート作品を鑑賞し、スタンプを蓋めよう）	11 大井川鉄道 （アート作品を鑑賞し、スタンプを蓋めよう）	12 大井川鉄道 （アート作品を鑑賞し、スタンプを蓋めよう）
13 大井川鉄道 （アート作品を鑑賞し、スタンプを蓋めよう）	14 大井川鉄道 （アート作品を鑑賞し、スタンプを蓋めよう）	15 大井川鉄道 （アート作品を鑑賞し、スタンプを蓋めよう）	16 大井川鉄道 （アート作品を鑑賞し、スタンプを蓋めよう）

コンプリートの応募方法

- ①メールで応募
メール：info.unmanned@gmail.com
※紙の応募も可。お名前・住所を記入してメールも送ってください。
- ②応募の時期
ヌクリハウス（インフォメーションセンター）
9月15日～17日 10時～18時
ヌクリハウス（インフォメーションセンター）
平日 9時～17時

※応募先：NPO法人クロスメディア 島田市日之出町4-1-1F (C-BASE) TEL:0547-39-2666

07 教育×ART



大井川アートキャンプ 「UNMANNED 無人駅の芸術祭/大井川」 連動企画

地域が作るあなたの作品。あなたがつくる地域の作品アートと地域の相互ラーニングプログラム。新しい視点で地域の文化と風土を学ぶアートキャンプ。西田秀己とメイン講師に、抜里エコポリスが地域講師。そして特別講師には民俗学者赤坂憲雄氏と天地耕作の村上誠氏がレクチャに駆けつけた。最終日には「一日限りの展覧会」を耕作放棄茶畑をキャンパスに実施した。

地域の歴史や暮らしのレクチャ、制作のアドバイス、展覧会キャンパス制作に抜里エコポリスが協力。単なるサポーターの域を超え、レクチャをする存在に変容したことはこれまでの大きな成果と考える。赤坂憲雄氏からは「無人だけど無尽がある」というメッセージをいただいた。住民の相互扶助の仕組みである。アートにより集落に残るかつての無尽の痕跡を掘り起こすことができているのか、現代版の新たな形の無尽が出現しはじめているのか、ここまで創り上げてきたアーティストと地域との関係性を丁寧に見つめ共に取組を加速させたい。

会 期	2025 年 2 月 9 日（日）～2 月 16 日（日） 7 泊 8 日
会 場	静岡県島田市川根町抜里エリア
対 象	美術や地域活動に関心を持つ大学生・専門学生・一般（18 歳以上）
受 講 料	28,000 円（滞在費・受講料・事前振込）
宿 泊	Atelier&Guesthouse ヌクリハウス（静岡県島田市川根町抜里 930）
参加者数	6 名
	太田遥夏 明治学院大学 身体表現論コース 3 年
	石垣勇磨 BOOK MARUTE 26 歳
	川口結菜 明治学院大学 芸術学部 1 年
	遠藤春香 青山学院大学 総合文化政策学部 4 年
	鈴木一生 武蔵野美術大学 芸術文化学科（～3 月） 油絵学科油絵専攻（4 月～）2 年
	高岡美羽 女子美術大学 女子美術大学 2 年

講師陣紹介



■メイン講師 西田秀己

プロフィール：建築的手法をベースに、風景との対話を生む環境インスタレーションを手がける。周囲の環境や、意識しなければ見えにくい事象に眼差しを向け、世界の広がりや美しいディテールに触れる作品を制作。廃線となった線路をデジタルフロタージュでアーカイブするなど様々な手法を用いて活動。女子美術大学専任講師。



■特別講師 赤坂憲雄

プロフィール：民俗学者。東京郊外に暮らし、武蔵野歩きを楽しんでいる。「異人論序説」（1986 年）で在野デビューし、物書き稼業になる。柳田国男論を起点にして、日本の民俗文化を旅しながら論じてきた。東北にフィールドを移して、東北学という知の運動を起こし、「東北学」を提唱した。震災の直前に東京に戻ってからは、性食考や宮崎駿論など関心の赴くままに探索を続けている。



■地域講師 抜里エコポリス

プロフィール：島田市川根町抜里地区で活動。会員約 50 名。ホタルの育成や能動の整備などの環境整備などの環境整備活動を軸に無人駅の芸術祭のスーパーサポーターとして活躍。令和 3 年には、抜里地区が「ふじのくに美しく品格ある邑」知事顕彰を受賞した際の中心団体。

※特別ゲスト：天地耕作／村上誠

[スケジュール]

1. チェックイン・ガイダンス・ウェルカム寄り合い
2. 「大井川のアーティストたち」「抜里の今昔」
3. 「無人駅の芸術祭による地域の変化」・集落散策
4. フリー・お茶のみメンタリング1
5. ちゃばらのギャラリー制作・制作タイム
6. お茶のみメンタリング2・制作タイム
7. 作品設営・最終好評会・フェアウェル寄り合い・修了証授与
8. チェックアウト・解散

[レクチャープログラム]

■レクチャー1 大井川のアーティスト達（メイン講師：西田秀己）



■レクチャー2 静岡県における屋外美術について（特別講師：天地耕作：村上誠）



■レクチャー3 抜里の今昔（特別講師：赤坂憲雄）



■レクチャー4 無人駅の芸術祭による地域の変化（クロスメディアしまだ）



■集落散策（地域講師：抜里エコポリス）



■ウェルカム寄り合い・フェアウェル寄り合い



■作品制作および発表



「抜里を借景する」をいうテーマで、さらに「交換」もテーマに加えて、レクチャ、メンタリング、作品制作を行う 1 週間のアートキャンプという初の試み。UNMANNED 無人駅の芸術祭／大井川をはじめとしたアートによる地域づくりを行ってきたからこそ、関係人口創出を目的とした、新しい学びのプログラム作りを実施することができたと考える。民俗学、アート、芸術祭という 3 つの視点からのレクチャに加え、抜里エコポリスを中心とした集落の人々との濃い関係値から作品を創り出すことにより、参加者は単なる学びの来訪者から、地域を深く理解し、より深く地域に今後も関わり続けたいという想いを新たにしていた。作品発表は、詩、立体作品、映像、インスタレーション等個性豊かなものであり、開催した「一日限りの展覧会」は芸術祭来訪者や抜里地区住民など 30 名近くが集まり、参加者の成長を見守る時間となった。展覧会会場は耕作放棄となっている茶畑をギャラリーとし、集落のみなさんと共に創り上げた。外からの人材を受け入れる存在であった抜里住民は、今回初めて「教える」立場となり、参加者の視点や制作に深く関わることで地域側も新たな学びとなった。相互の学び・相互の視点を交換し合うことが、持続可能な関係人口創出の重要なキーワードであり、アートを手法として行うことの手ごたえを大いに感じることであった 8 日間であった。今後も継続していきける形を模索していく。

■チラシ（大井川アートキャンプ募集）

[illegible]

大井川アートキャンプ 参加者の皆様へ

〔はじめに〕

大井川アートキャンプに参加される皆さんこんにちは、メイン講師の西田秀己です。この度はご参加ありがとうございます。このキャンプは静岡県島田市を流れる大井川流域の抜里という地域を舞台に進行します。大井川流域では2018年から2024年まで「UNMANNED 無人駅の芸術祭／大井川」が毎年開催され、私を含むたくさんのアーティストがこの地域と深く関わってきました。また、この地域に住む地元の方々はこうしたアーティストを迎え入れる側として、アーティストという来訪者たちと深く関わってきました。住者と来訪者が風土と芸術を通して互いの視点や価値観、知識を共有する。そうして出来上がった作品は、次の豊かな社会を考えるのに有用なヒントをはらんでいるように思います。

皆さんがこれから参加する大井川アートキャンプは、芸術祭によってアートに開かれた地域を「学びの場」として捉え、住者と来訪者とが直接学び合い、視点を交換する機会をさらに広げてみようという試みです。これは地域の方々から直接地域に根付いた価値を学び、そして来訪者なりの視点を落としてゆく相互ラーニングプログラムと言って良いでしょう。

少し堅苦しい前置きになってしまいましたが、あくまでこれは「キャンプ」です。参加者の皆さんには力を抜いて、日常から少し離れた地域で過ごす一週間を、まずは皆さんなりに楽しんでいただければと思います。そして滞在中にそれぞれが感じたことや見つけたことを、「作品」という形で、集まった仲間や地域の方々に共有もらえたら嬉しいです。

一週間のプログラムでは、アーティストとしてこの地域に関わってきた私 西田と、住者としてアーティストたちを迎え入れてきた「抜里エコポリス」のメンバーが、皆さんの滞在と作品制作をサポートします。さらに地域や風土を深く知る手掛かりとして、民俗学者の赤坂憲雄さんのゲストレクチャーを予定しています。こうしたプログラムを通して風土に触れ、そこから得たものを自分なりのやり方で表現し共有する。そういった豊かな「交換」が起こることを願っています。

皆さんと抜里でお会いできることを楽しみにしています。

メイン講師 西田秀己

〔プログラム〕

- 1日目 (2/9)**
- 13:00** JR 島田駅前北口ロータリー集合（車で抜里へ）
- 14:00** スクリハウス到着、チェックイン
- 15:00** アートキャンプガイダンス（西田進行／60分）
- 講師・参加者 自己紹介
 - 抜里地域でのこれまでの取り組みについて（クロスメディア）
 - プログラム・課題 説明（西田）
- 18:00** ウェルカム寄り合い
- 講師・参加者で乾杯
 - 参加者の自己紹介スライドショー（参加者／1人5分程度）

2日目 (2/10)	10:00 レクチャー 1 - 「大井川のアーティストたち」(西田／60 分) 13:00 レクチャー 2 - 「抜里の今昔」(抜里エコポリス×赤坂憲雄／120 分)
3日目 (2/11)	9:00 レクチャー 3 - 「無人駅の芸術祭による地域の変化」(クロスメディア／60 分) 10:00 抜里散策 (抜里エコポリス／120 分) 午後 フリー (思索タイム)
4日目 (2/12)	午前 フリー (思索タイム) 14:00 お茶のみメンタリング 1 (西田、抜里エコポリス／90 分) - 作品アイデアについて、お茶を飲みながらの意見交換。作品制作に向け、必要なことやものを探す。
5日目 (2/13)	9:00 ちゃばらのギャラリー造作 (西田、抜里エコポリス、参加者) - 耕作放棄となって背の伸びたちゃばらを刈り込み、屋外ギャラリーを作る。 午後 フリー (制作タイム)
6日目 (2/14)	10:00 お茶のみメンタリング 2 (西田、抜里エコポリス／90 分) 午後 フリー (制作タイム)
7日目 (2/15)	午前 作品設営 - 各自作品をちゃばらのギャラリーに展開 13:00 最終発表会 (90 分／一般公開) 16:00 作品片付け - 講師・参加者で乾杯 - アートキャンプ修了証の授与
8日目 (2/16)	午前 チェックアウト、解散

08 教育×ART



夏休みこども里山×アートプログラム

大井川流域をアートの舞台とする地域芸術祭「UNMANNED 無人駅の芸術祭／大井川」を2018年から開催を重ね、その中で、風土、農業、自然、祭りなど、私たちの地域を形づくる営みにこそ芸術の本質があるという大きな気づきがあった。一年を通じた地域づくりの場をひとつの芸術活動にしているための道筋をさぐりたいと思い、同時に地域を担う未来そのものである子ども達と一緒に楽しく活動をしたいと考え、地域とアートがつながる取り組みを企画した。

事業実施 2024年6月 - 2025年8月

参加作家 かずさ
佐藤悠

滞在拠点 静岡県島田市川根町抜里地区、Atlier & Guest house ヌクリハウス

連携 抜里エコポリス、NPO 法人クロスメディアしまだ

公式サイト <https://unmanned.jp/>

■参加アーティスト

・プログラム②

アーティスト名：かずさ

プロフィール：独自のナラティブと向き合いながら、主にインスタレーション、パフォーマンス、テキストなどによる表現活動を行う。個人的な家族関係、人間関係、愛における問題は誰しもがそれぞれ向かい続けるものであり、作品を通じてそれぞれのコインの施行を稼働させるようなものとなることを願い表現している。



・プログラム③

アーティスト名：佐藤悠

プロフィール：一見何もない所から、表現が紡ぎだされる現場を作っている。滞在制作、パフォーマンス、レクチャー、ワークショップ、鑑賞プログラムなど、様々な表現を場や機械に応じて発表している。東京芸術大学芸術表現科先端 博士課程修了



[プログラム①]

ホタル観賞会のお祭り & 特別な星空アート散歩へ GO！

日時：2024 年 6 月 15 日（土）18:30～20:00

場所：抜里八幡神社（集合）

参加費：1000 円

参加人数：16 名

島田市内の小学生とその家族が参加し、ホタルについて学び、地域の人たちと交流、夜の作品鑑賞という特別な体験と、豊かな自然を感じられるホタル観賞のどれもを満喫し大変好評を得た。



参加した児童の絵日記（抜粋）



[プログラム②]

川遊び満喫！魚のつかみ取りとお茶碗で演奏アート体験！

日時：7月28日（日）10:00～15:00

場所：ヌクリハウス、上手川

参加人数：15名

地域の協力団体のおかげで定員以上の全員の受け入れが可能に。川遊びをしながらヤマメのつかみ取り体験をし、豊かな自然を存分に体感できた。また身近な茶碗をつかって自らもアーティストになれる体験も。心身共に豊かになった子ども達だった。



参加した児童の絵日記（抜粋）



〔プログラム③〕

竹で長〜〜い「流しそうめん」を作ろう & アートなお話づくり

日時：8月21日（水）10:00~15:00

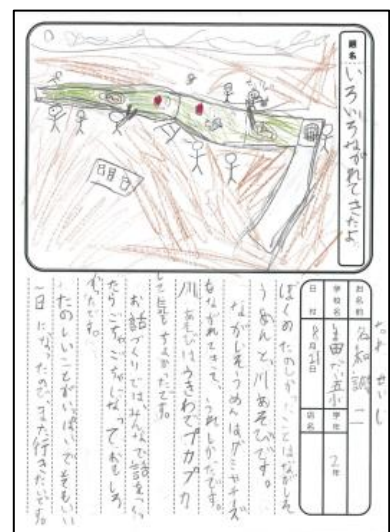
場所：上手川、ぬくり園、ヌクリハウス

参加人数：31名

大自然に囲まれ川遊びを楽しみつつ、そうめん用の器を竹で作る体験も。その後長い竹をみんなで運び、31人同時に流しそうめんをお腹いっぱい味わった。地域の皆さんや参加者同士で交流するうち、安心できる場所だと感じたのか、その後のアートなお話づくりでも、全員が興味を持って自由に自己表現を発揮させている様子がうかがえた。



参加した児童の絵日記（抜粋）



《広報等の実績》

■チラシ（夏休みこども里山×アートプログラム）



■地域情報誌



■島田市公式ライン、島田市子育てサイト「しまいく」



08 観光×ART =====

ばいんばいん山「ART TRAIL」&パーマネントプロジェクト

恒久設置作品とそのメンテナンスと、ハイキングルートの整備をアーティストと地域住民とともに行うことで実現した。マップ、道案内をつくり、回遊ルートが完成。小山真徳の「てのひら」は修繕を抜里エコポリスが実施。複数年にわたるアーティストとの信頼関係の中でこそ実現する動き。エコポリスも作品の価値を理解した修復を行ってくれていることが大きな実績であるとする。

事業実施 2024 年 6 月～2025 年 3 月

展示期間 2025 年 2 月 15 日～3 月 16 日

開 場 静岡県島田市川根町抜里エリア

参加作家 東弘一郎、小山真徳、さとうりさ、西田秀己、形狩りの衆

連 携 抜里エコポリス、抜里町内会、さよばあちゃんの休憩所、
NPO 法人クロスメディアしまだ

《「ぼいんぼいん山（寺山）ART TRAIL」整備プロジェクト》

抜里集落に位置する、茶畑のみの山「寺山（通称ぼいんぼいん山）」がある。茶農家しか行くことのないアクセスの悪いぼいんぼいん山はそこで栽培を続ける農家も減少しており、農道や景観は荒れる一方であった。2022年度にアーティストとの住民との寄り合い話の中で寺山の話になり「抜里アート回廊プロジェクト」が立ち上がり、2023年度に山頂及び中腹にアート作品の設置が行われた。2024年度にはアート作品により多くの住民が関心を寄せ、山頂付近の茶畑の整備と、通年で道の整備、看板表示、危険個所の修繕などを、住民やサポーターも協力して取り組むとともに、ハイキングマップの制作及びWEBアプリ（YAMAP）への登録を実施した。アート作品とともに茶畑の広がる里山の景観を体感できるスポットとして毎週末、家族連れやハイカーが訪れている。

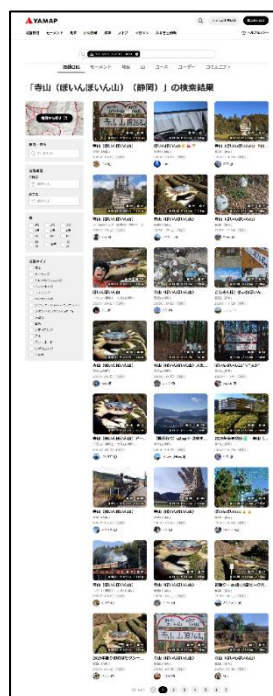


マップの作成

A4サイズ、4c/4c、4つ折



YAMAP 登録情報 178 件の活動記録（1月30日現在）



《アーティスト及び作品実績》

アーティスト：東弘一郎

作品タイトル：茶畑のサイクリスト

作品設置場所：しまの空き地（抜里駅）

鑑賞者は防霜ファンからの視点で茶畑を一望でき、自転車を漕いで風車を回すことができる。また、作品の体験をすることで鑑賞者自身が景観の一部となる。

高速道路を降りて茶畑だらけの風景に一気に変わると、島田に入ったという実感が湧く。整えられた茶樹の独特な形状と、それを見守る防霜ファンが立ち並ぶ風景はとても美しい。作品を通じて地元の人々と訪れる人々の間での対話を促し、この美しい茶畑の風景をさらに愛してもらうきっかけとなればと思う。



《アーティスト及び作品実績》

アーティスト：小山真徳

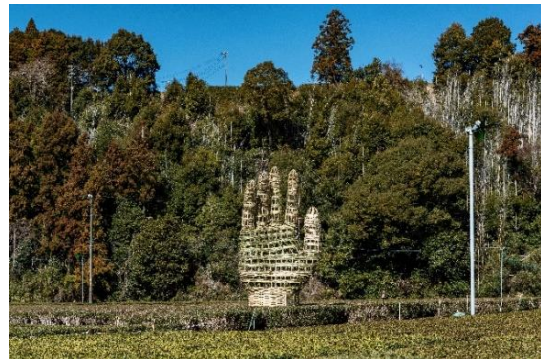
作品タイトル：てのひら

作品設置場所：茶畑

〔作品プラン〕

山と山に挟まれた大井川流域では、対向車が譲り合わなければ通れない狭く険しい道が多々ある。滞在制作の際、対向する軽トラの運転席から、軽く右手を掲げる仕草でこちらに合図をおくるやさしい手のひらを何度も見た。蒸気機関車に乗った時には、SL に向かって手を振るひとびとを車窓からみた。沿線から、温泉の露天風呂から、茶畑から。遠くからでもその小さな手のひらは存在感がありわたしは自然と目で追った。

何気ない手のひらが旅の上では無性に恋しい。わたしはいつまでも変わらない普遍的な情愛のサインである手のひらをこの土地に作ろうと思う。



《アーティスト及び作品実績》

アーティスト：さとうりさ

作品タイトル：本人

作品設置場所：ぼいんぼいん山

〔作品プラン〕

寺山（通称ぼいんぼいん山）を 180 分の 1 スケールで形成した、見て・触って・座れる作品。設置されている位置は作品の座面位置とほぼ一致する。風景を眺め、山のかたちに触れ、自分の“現在地”を確認する時間は、それぞれの“今”をクリアにしてくれる。もっと本人になれる。

“わたしはここにいる”



作品タイトル 地蔵まえ3/サトゴシガン

設置場所 うりやのしんや

〔作品プラン〕

「パブリックアートもお地蔵さんのように地域になじむのは可能か」というテーマでご家庭でオブジェ作品を預かってもらうプロジェクト。果たしてパブリックとプライベートの境界線はどこに？



《アーティスト及び作品実績》

アーティスト：西田秀己

作品タイトル：境界のあそび場Ⅱ／ちゃばらのカーテン

作品設置場所：茶畑

〔作品プラン〕

茶畑の一角にひらひらと漂う大きなカーテン。下には円形のベンチが設えられ、訪れる人々の休息の場となる。

茶畑の空に漂う柔らかな布地の向こうには世界の輪郭が浮かび上がり、はためく裾から見え隠れするその端々に、世界の細部がきらめく。



作品タイトル 境界のあそび場Ⅳ／音の要塞

作品設置場所 ばいんばいん山

〔作品プラン〕

大井川流域の地域では、古くから対岸との物流、人の行き来、そして情報の交換のために様々な手段が工夫されてきた。この要塞は、「交信」の努力をしてきた人々へのオマージュ。自動車での行き来が容易になり、大量の情報を瞬間のうちに交換できるようになったいま、我々の感覚はこの要塞からどんなメッセージを発信し、目の前の風景からどんな返答を受け取るのだろうか。



《アーティスト及び作品実績》

アーティスト：形狩りの衆

作品タイトル：顔の家 2024

作品設置場所：天野邸

〔作品プラン〕

ライフマスクのワークショップを通じて、参加者が互いの顔に石膏を塗り、はがし、壊さないように顔型をむき出す。相手への思いやりや信頼、緊張と不安、安堵と喜び。さまざまな感情が行き交う場面に立ち会ってきた。「今生きているお互いをいとおしみながら、今を残す」活動。



09 観光×ART =====

Atelier & Guest house ヌクリハウス

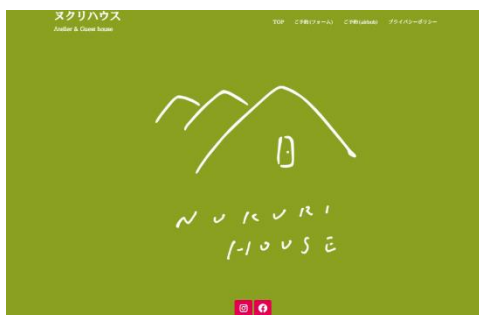
アーティストの制作拠点であり、地域の方との交流拠点でもあり、一般宿泊客も増えつつあり、様々な人たちと交流できるゲストハウスの機能は、地域づくりにおいて大きな役割を果たしている。アーティストが滞在制作をする横で、地域住民が寄り合いを行い、海外等の一般客がまざりあっている。多様な人材が寄り合いに参加し、関わり合っていく関係性の循環が生まれ始めている。

名称：Atelier & Guest house ヌクリハウス

住所：静岡県島田市川根町抜里 930

HP：<https://nukuri-house.unmanned.jp/>

予約サイト：Airbnb

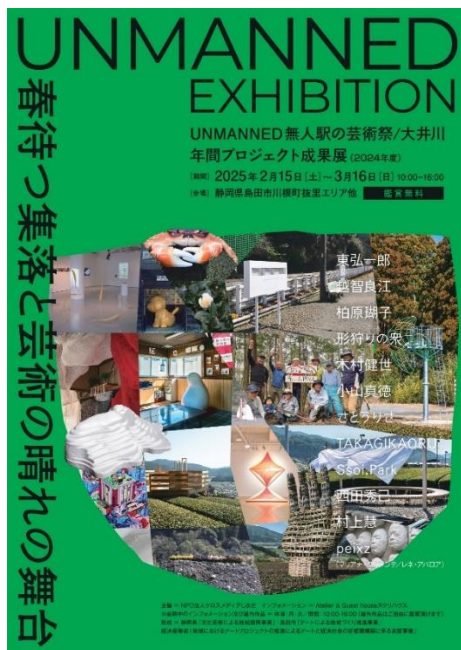


■利用の様子



10 広報等の実績

■チラシ (UNMANNED EXHIBITION)



|フリーペーパー|

■地域情報誌 cocogane (エリア：島田市・吉田町・牧之原市)

2024 年 11 月号

2024 年 12 月号



2 月号 (芸術祭特集)



3月号（芸術祭特集）

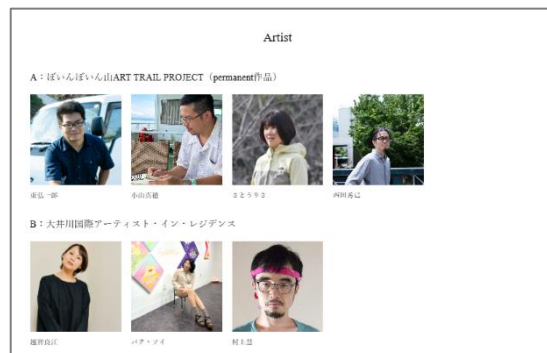


■地域情報誌むるぶプラス（エリア：島田市・藤枝市）

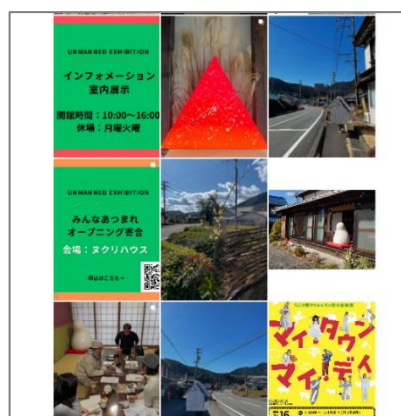


｜メディア発信｜

■公式サイト（UNMANNED 無人駅の芸術祭）



■SNS (Instagram)





静岡新聞 2024年6月17日



静岡新聞 2025年2月16日



静岡新聞 2025年2月



静岡新聞 2025年2月25日



静岡新聞 2025年3月17日

11 アンケート

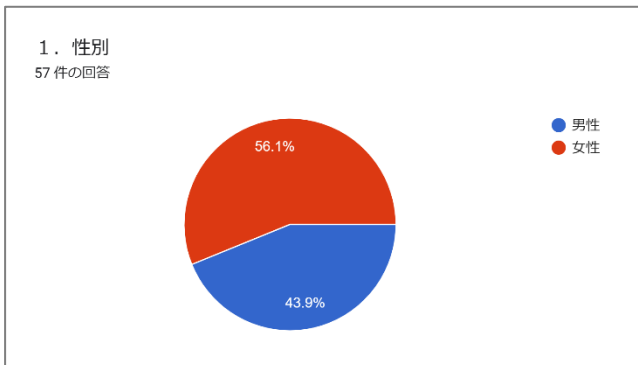
UNMANNED EXHIBITION 開催期間に、インフォメーションセンター（島田市川根町抜里）にて来訪者へのアンケート調査を実施した。

〔概況〕

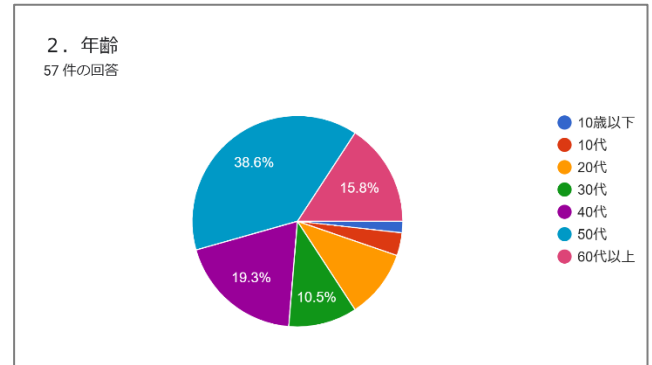
対象：UNMANNED EXHIBITION の来訪者

実施場所：インフォメーションセンター（ヌクリハウス）

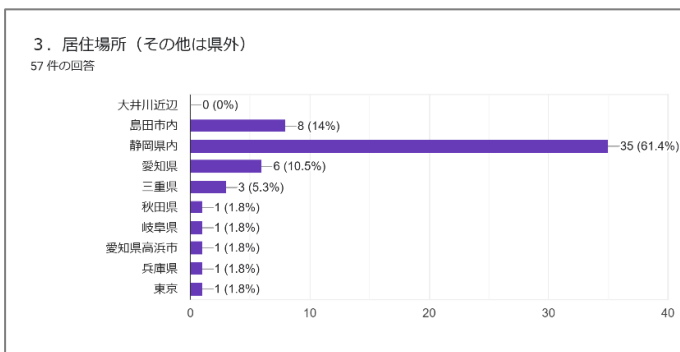
実施方法：記入式 回答数：58 件



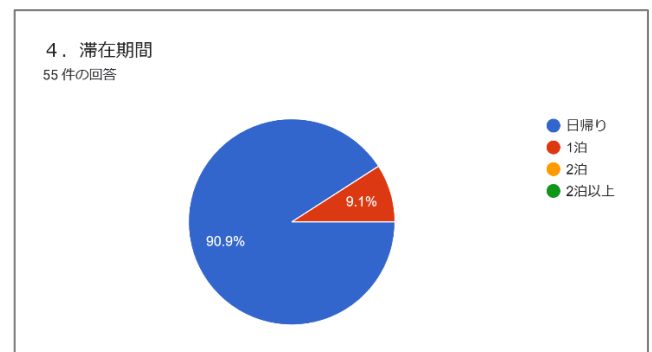
最も多かった項目は、女性 56.1%であった。
次いで男性 43.9%となった



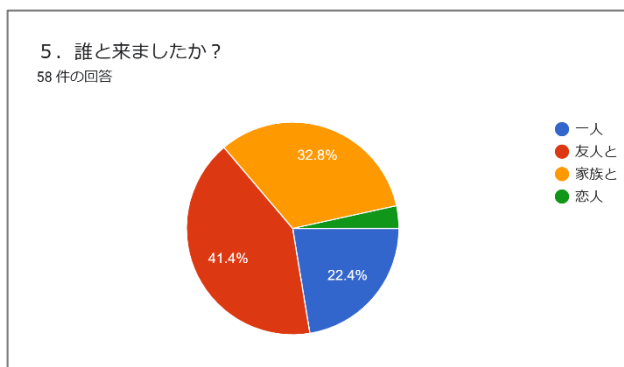
最も多かった項目は 50 代で 38.6%であった。
次いで 40 代 19.3%



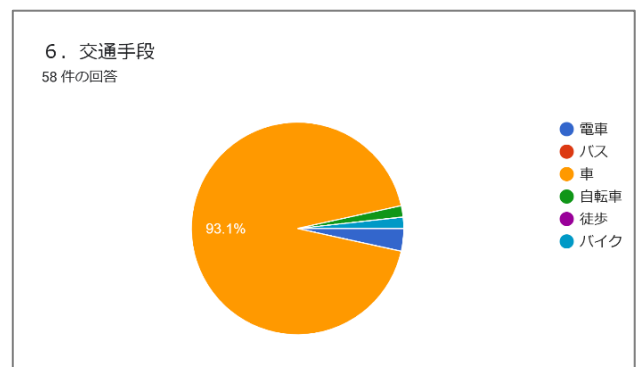
最も多かった項目は、静岡県内 46.8%であった。
次いで島田市 14%となった。



最も多かった項目は日帰り 90.9%であった。
次いで 1 泊 9.1%となった。



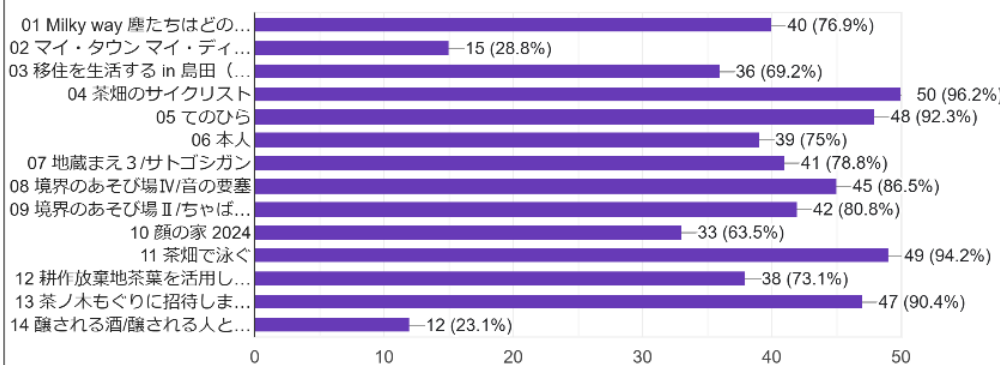
最も多かった項目は友人と 41.4%
次いで家族と 32.8%となった。



最も多かった項目は車 93.1%であった。
次いで電車 3.4%となった。

7. 見た作品、これから見る予定の作品を教えてください

52 件の回答

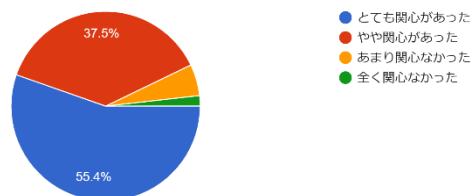


最も多かった項目は、茶畑のサイクリスト 96.2%であった。

次いで、茶畑で泳ぐ 94.2%となった。

8. 普段の生活の中で、アートにどの程度関心を持っていましたか？

56 件の回答

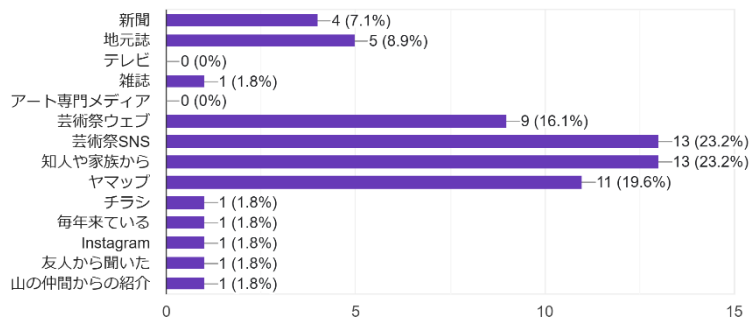


最も多かった項目は、とても関心があった 55.4%であった。

次いでやや関心があった 37.5%となった。

9. 本芸術祭を何で知りましたか？

56 件の回答

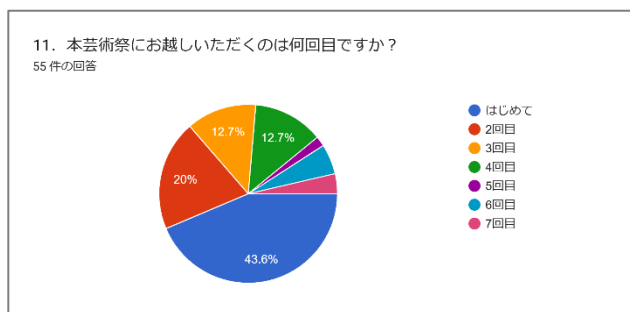


最も多かった項目は、芸術祭 SNS、知人や家族から 23.2%であった。

10. 本芸術祭に来たきっかけについて（46件）

- ・毎年来ているので 7件
- ・ハイキングしながらアート作品を楽しめるから 6件
- ・新聞、情報誌、SNSを見て 5件
- ・去年も来たので 4件
- ・友人に誘われて 4件
- ・ヤマップを見て 4件
- ・楽しそうだから 2件

そのほか、スタンプラリーとぼいんぼいん山に来たくて、芸術祭が好きなので、興味のあるアーティストがかかわったから、など

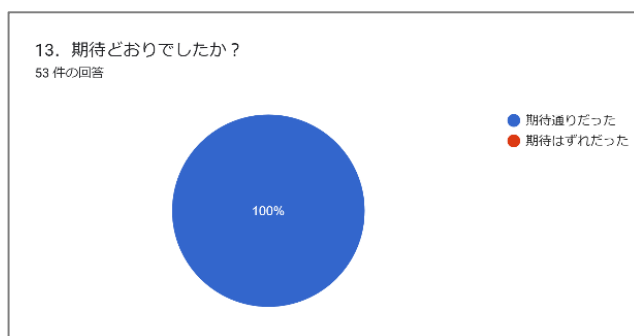


最も多かった項目ははじめて 43.6%であった。
次いで2回目 20.0%となった。

12. 来場前に期待していたことは？（33件）

- ・アート作品 8件
- ・アートと風景との融合 5件
- ・ぼいんぼいん山 2件
- ・地元の食べ物 2件

そのほか、てのひら、蟹、登山、スタンプラリー、公式ガイドなど

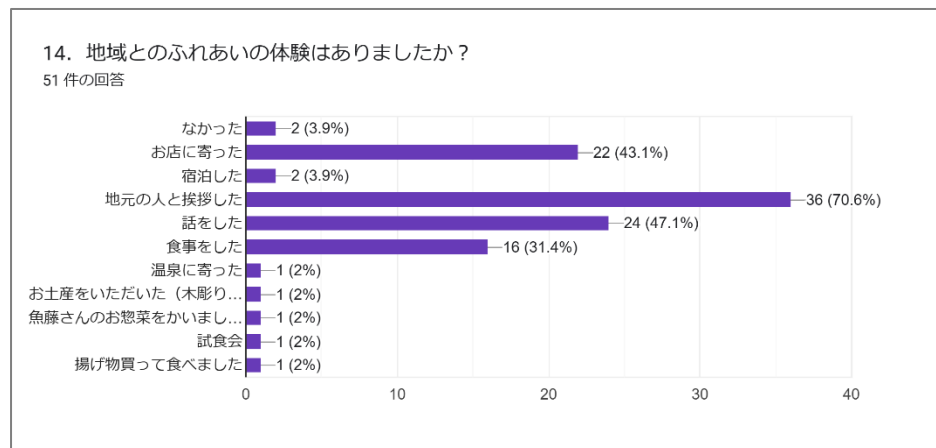


最も多かった項目は期待通りだった 100%であった。

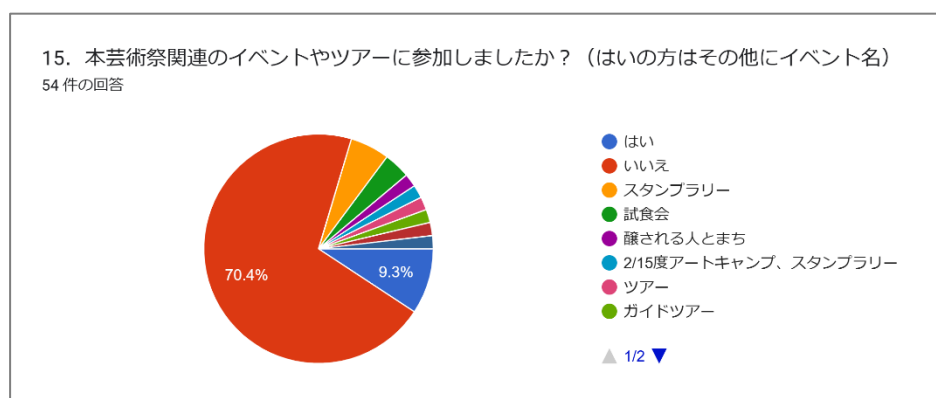
13. 期待通りであった理由について（15 件）

- ・期待以上だった 3 件
- ・作品がどれも素晴らしい 3 件

そのほか、作品愛あるガイドが心にしみる、雪の中で見ることができた、平日で雨なので独り占めできた、去年の作品もありなつかしく思えた、など。



最も多かった項目は、地元の人とあいさつした 70.6%であった。
次いで話をした 47.1%となった。



最も多かった項目は、いいえ 70.4%であった。

16. 次年度に向けて改善点や感想など（21 件）

<良かった点>

- ・来年も楽しみにしています
- ・とても楽しく歩けた
- ・毎年あるのと、新しい作品と、両方楽しめるのがいいと思います。
- ・これからも楽しいアート作品を作ってください、また来ます！
- ・駅で食べたカレーがおいしかったです。
- ・展示の規模間は歩いてたのしく見れました。地元の人とも交流できたので楽しかったです！
- ・毎年2月に来ていますが、仕事をやめ3月から新しい職場になり、ようやく落ち着いたので出来ました。一人で作品の中を歩いてしゃがんだり、雨にぬれたり楽しく過ごせました。
- ・来年もぜったい来ますのでよろしくお願いします。
- ・楽しかったです
- ・まだ見てる途中ですが、いつもわくわくする場になってて素敵です。

- ・面白かったです！
- ・来年も楽しみにしています！ありがとうございました！
- ・アート作品と島田や川根の景色の両方を楽しむことが出来て、毎回島田や川根のいいところを再発見できてとても楽しいです、

<改善点>

- ・あいにく雨天時の来場で、傘を持参していなかったり靴が貧弱だったり、装備の反省が大きかったです、。野外の芸術祭なので、装備・服装の参考やインターネットでの事前ルート確認（想定所有時間などを含め）ができると尚嬉しいですよ。
- ・レンタサイクルあった方が良いのかも、山とか歩く人あまりいないかも
- ・スタンプ番号が看板に書いてあればよかった
- ・マップの場所がわかりずらかったので、（⑥と⑨が水道タンク上の方のグレーの道にあると思ってました。）正確な場所だと嬉しいです！でも探検みたいで楽しかった！
- ・本人から音の要塞までの近道が分かりづらかったので、山中にも目印が欲しいです
- ・アート作品を見る順番があるといい
- ・チラシに記載されているアート作品をめぐるルートが分かりづらい。（アート作品の番号をもっと目立たせてほしい）
- ・地図の見方がすこし難しかったです
（歩きはじめれば分かりました。歩くまで距離間が分からず心配でした）
- ・展示との距離が近くて楽しかったです！体験できるものもあり、恋人とも楽しめました。
- ・中々難しいかもですが、何年か前にやっていたラインマップでしたかね、。あれを復活してもらい、スタンプラリーもデジタルだと雨の日でもたすかります。
- ・地図をもっとわかりやすくしてほしいです
- ・ライフマスク作りをやってみたい
- ・マップがもう少し正確でわかりやすいと嬉しいです。ちょっと道に迷ってしまって、⑥と⑨の場所が特に。でもとても楽しくまわれました！また来ます！